

平成21年 第3回木津川市議会定例会 開会あいさつ

みなさん、おはようございます。

本日ここに、平成21年第3回木津川市議会定例会をお願いいたしましたところ、議員の皆様には何かとご多用のところご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

今年は、全国的な梅雨明けの遅れや九州北部、山口県や兵庫県を襲った集中豪雨による被害が相次ぎ、改めて自然災害に対する備えの必要性を痛感いたしました。

「備えあれば憂いなし」担当課に対しまして十分な備えを指示したところでございます。

また、先に行われました第45回衆議院議員総選挙におきましては、民主党が第1党となり、国政の舵取り役が変わることとなりました。

何れにいたしましても、長引く経済情勢の悪化が少しでも上向き、国民生活が向上するよう願っているところでございます。

それでは、本定例会冒頭の貴重なお時間を頂き、市政の状況等につきまして、ご報告させていただきます。

まず、初めに新型インフルエンザについてでございます。

WHO(世界保健機構)が、世界的なまん延状況にあると宣言したものの、日本では、収束の方向に向かうと考えられておりましたが、予想に反し、夏場にもかかわらず広がりを見せ、感染者の死亡事例が報告されるに至っております。

このような情勢の中、本市といたしましては、第3号補正でマスク等の資器材の増加を行ってまいりたいと考えております。また今後の感染拡大防止に向けまして、関係機関と連携を密にして、感染拡大防止に全力で取り組んで参りたいと考えております。

次に、新庁舎建設につきましてご報告させていただきます。

新庁舎の建設につきましては、平成19年4月から本格的な工事が始められ、ようやくこの8月に全ての事業の完成を迎えることができました。

8月8日には、300人ものご来賓の皆様をお招きいたしまして、新庁舎竣工式を執り行なうことができました。

この日を迎えられたことは、数多くの皆様方のお力添えとお支えがあればこそと、感謝を申し上げます。

今後は、庁舎周辺の市道拡幅を含めた整備につきましても、国や京都府のご支援

をいただきながら、継続して取組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

次に、行財政改革への取り組みについてでございます。

木津川市が持続可能なまちづくりを行っていくためには、更なる行財政改革が必要となってまいります。

この木津川市を「子や孫の未来につなぐ」ために、市民の皆様にも木津川市の現状等について、いろいろな視点から考えていただきたく、広報きづがわ9月号から連載を開始いたしました。

8月に開催いただきました、木津川市行財政改革推進委員会におきまして、コミュニティバス運行事業と幼稚園バス運行事業につきまして、市で実施するが改善を要するとの評価を受けました。

今後は、同委員会での意見を参考に、十分に検討させていただき、政策判断してまいりたいと考えております。

さて、木津川市が合併してから早いもので、2年6ヶ月が経過いたしました。

現在、木津川市の事務所につきましては、本庁舎方式とし、加茂と山城にそれぞれ支所を設置して、窓口サービスを中心に、行政サービスの維持に努めてきたところでございます。

しかしながら、山城支所の庁舎は、昭和33年に建設されたものもあり、耐震基準に満たない状況であることを踏まえ、建物の更新に先立ちまして、早期に支所のあり方（組織・人員・役割など）を検討し、平成24年4月をメドに市民サービスを担う新組織としてスタートしたいと考えているところでございます。また、それに係る調査設計費を、平成22年度当初予算において計上し、この予算を活用して、22年度中に基本設計及び詳細設計を進め、遅くとも23年3月末までに、建替えに必要な工事予算の計上とご議決を願い、同年4月中までには着工し、24年3月末までには完成できるよう努力してまいりたいと考えております。

議員各位におかれましては、ご理解賜りますよう、よろしくお願い致します。

次に、「つどいのひろば」につきまして、ご報告させていただきます。

子育て親子が気軽に交流や相談をしていただく場として、7月1日に平和堂アル・プラザ木津において開設させていただきました。

開設から2箇月を経過し、運営も順調に進んでおります。利用者数も今日までに約400組の登録があり、7月には延べ1,230人の親子が、また8月には延べ1,000人の親子にご利用していただいております。多くの利用者の皆様に大変喜んでいただいております。

今後も子供を安心して生み、健やかに育てられる環境づくりに努めてまいりたいと

考えております。

また、来る9月13日には、木津川台の同志社大学学研都市キャンパス内にございます赤ちゃん学研究センターと京都府・木津川市・精華町・京田辺市が中心になって「赤ちゃんにやさしい都市(まち)づくり」フォーラムを開催いたします。

このフォーラムは、無限の可能性を秘めた赤ちゃんの発達や行動を解明する同センターの研究成果をもとに府民交流を推進し、安心して楽しく子育てができる「赤ちゃんに優しいモデル都市づくり」を進めることが目的でございます。

同志社大学赤ちゃん学研究センターの研究成果を学研都市から全国に向けて情報発信することが、木津川市が目指す「子育てNo.1」のまちづくりに寄与するものと期待しているところでございます。

また、本定例会に提案いたしております平成20年度決算は、合併効果が現れた決算であり、今後の行財政運営を行う上での課題が明らかになったものと認識しているところでございます。

主な財政指標を見てみますと、経常収支比率は92.0%、財政力指数(3カ年平均)は0.684、公債費比率は12.1%、起債制限比率(3カ年平均)は8.9%で、経常収支比率を除く指標におきまして前年度より好転いたしております。

いずれの数値におきましても国で定められております早期健全化基準を大きく下回り、財政の健全性が保たれているという状況にあります。

これらの指標が、好転あるいは健全性を確保しておりますとおり平成20年度決算におきましても、昨年度に引き続き比較的良好な決算状況となりましたが、経常収支比率が92.0%と1.7ポイント悪化するなど、今後の行財政運営を推進する上での不安な要素も多く抱えております。具体的には、歳入面におきましては、地方交付税の合併算定替の措置や合併補正措置の期限切れによる減少、また昨今の経済危機による市税収入等の減少など、また歳出面においては教育施設等の建設や耐震化など、大きな財源を伴う事業や行政サービスの高度化対応などであり、今後においても計画的・効率的な行財政運営を行わないことには、これらの指標が大きく悪化することも懸念されます。

そういった観点からも、行財政改革を推進することが求められているものと判断しているところでございます。

本定例会にご提案いたしております議案等につきましては、お手元にお届けいたしておりますとおり、同意が3件、認定12件、議案11件、報告9件の合計35件となっております。

詳細につきましては、後ほどご説明させていただきますので、よろしくご審議いた

だき全議案ご議決ご同意いただきますようお願い申し上げ、簡単ではございますが、開会のごあいさつとさせていただきます。